



(仮称)三重ジオパーク(MIEGP)
登 録 提 案 書

【より持続可能な地域社会へ】



2025年5月1日



Geopark

ジオパークとは

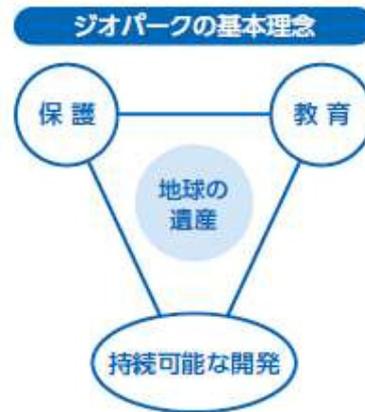
「地球の遺産 (Earth Heritage)」

環境省 HP より

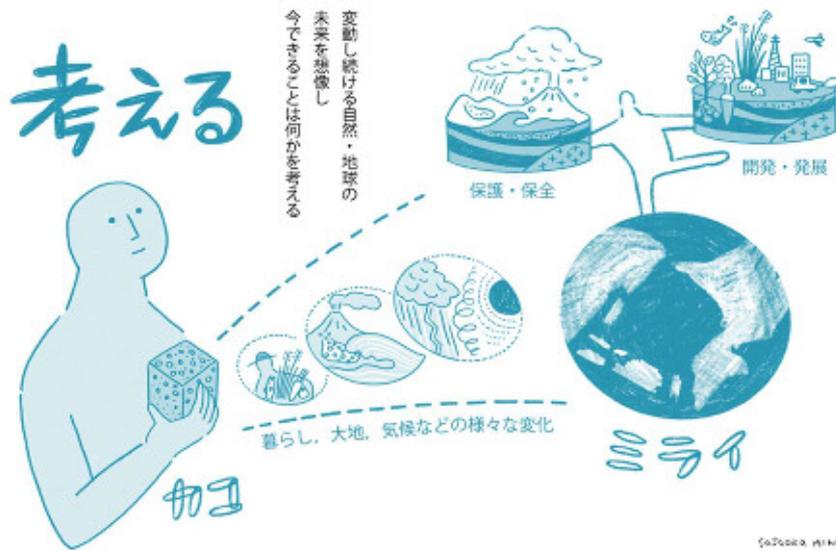
ジオパークは、科学的に貴重な、あるいは景観として美しい地域・地質などの「地球の遺産 (Earth Heritage)」を保護するとともに、教育、ツーリズムなどの推進に活用し、地域の持続可能な開発に寄与することを目的としています。

ジオパークは、主として地形・地質を対象とするものですが、地形・地質はその場所の生態系に大きな影響を与え、また、そこで生活する人々の生活様式や文化にも影響します。このため、ジオパークでは、生態系や地域の生活・文化や歴史なども活動の対象としています。

2015年11月に開催された第38回ユネスコ総会において、世界ジオパークネットワークの活動が、「国際地質科学ジオパーク計画 (International Geoscience and Geoparks Program)」として、ユネスコの正式事業となりました。



日本ジオパークネットワーク HP より



ツーリズム【tourism】とは
観光事業。旅行業。また、観光旅行。 出典：デジタル大辞泉

ジオパークは、地球資源を持続的に利用したり、気候変動の影響を緩和したり、自然災害の影響を軽減するといった、社会が直面している重要課題への意識と理解を高めるため、その地域のあらゆる自然・文化遺産と関連した地質遺産を活用しています。

ジオパークは、歴史と現代社会における地域の地質遺産の重要性について意識を高めることで、地域住民が自分たちの地域に誇りを持ち、地域と住民の一体感を強化します。地域の地質資源を保護しながら、ジオツーリズムを通じて新たな収入源を生み出し、革新的な地元企業や新しい雇用、質の高い研修の機会を創出します。

以下今年度ジオパーク認定の徳島県三好市 HP より：ジオパークとは、「Geo（地球・大地）」と「Park（公園）」とを組み合わせた造語で、「大地（ジオ）」をベースとし、それと関わる独自の生態系や歴史文化などのつながりを通して、地球を学び、まるごと楽しむことのできる場所です。ジオパークでは、自然資源、自然災害、気候変動、教育、科学、文化、女性の社会進出、持続可能な開発、地域と先祖の知恵に焦点を当てた活動を行っています。

©2024年11月現在、全国で47の日本ジオパーク委員会（以下JGC）で認定されたジオパークが有り、その中に10ヶ所のユネスコ認定ジオパークが有ります。糸魚川ジオパークがユネスコ第1号で認定され、南アルプスジオパーク（長野県伊那市、飯田市、大鹿村等）が中央構造線関係でJGC認定されています。

このジオパークに認定されれば地域の勤労者人口の減少カーブを緩やかにし、将来この地域が持続化可能な地域として存続していける一つの方策として採用されたいと思います。 (y.ito

三重県松阪市を中心としたジオパーク登録提案書

1. ジオパーク名称

(仮称) 三重ジオパーク (MIEGP)

2. ジオパークのテーマ

「太古からの大地の記憶 - 世界の中央構造線月出・田引の露頭と古代からの物語」(案)

3. ジオパークを構成する地域

三重県松阪市及び三重県内中央構造線関係地域(案) (当初は松阪市内)

4. ジオパークの範囲

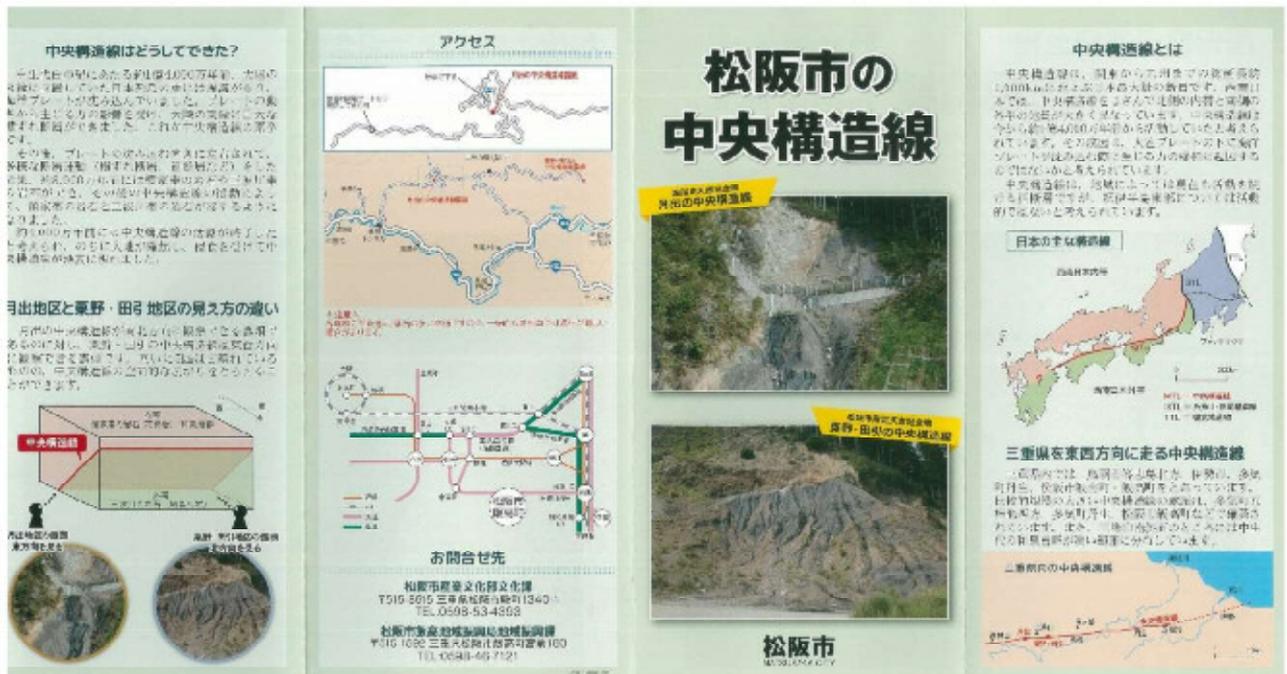
上記の行政区域

5. ジオパークの特色

5.1 地質・地形

- 中央構造線: 日本列島を縦断する約 1000km の大断層(以下 MTL)。この断層の存在が、地域の地形、地質系に影響を与えている。
- 月出の露頭、栗野・田引の露頭: 学者的には世界的に知られている中央構造線約 1000km の中でも断層の断面と正面が観察できる最大級の露頭であり、日本列島の形成過程を示す貴重な地質断層。約 1 億年前の地質が観察できる。

松阪市リーフレットより



松阪市リーフレットより

国指定天然記念物

月出の中央構造線

指定年月日:平成14年(2002)12月19日
 位置:三重県松阪市飯高町月出
 観望場所:高さ約50m・幅約50m・傾斜角約35.5°

月山の中央構造線は、規模がきわめて大きく、中央構造線を境に西南日本内帯の御家帯と外帯の三波川帯が直に接していることが観察でき、学術的にたいへん貴重な露頭です。

中央構造線は東西方向に走っており、北へ60°傾いています。中央構造線を境に北側は御家帯の岩石が圧砕されたマイロサイトを分布し、南側には三波川帯の黒色片岩が圧砕された岩石が分布しています。



松阪市指定天然記念物

栗野・田引の中央構造線

指定年月日:令和2年(2020)11月24日
 位置:三重県松阪市飯高町栗野および田引
 観望場所:高さ約52m・幅約110m・傾斜角約40.5°

栗野・田引の中央構造線は、規模が大きく、外帯側を構成する三波川帯結晶片岩と、内帯側を構成する御家帯花崗岩類と御家帯群が直に接していることが観察できるとともに、露頭面が中央構造線の走向方向と同じであるため、水平方向の広がりを実感できる貴重な露頭です。

南北方向に観察できる月山の露頭に対し、栗野・田引の露頭は東西方向に観察できるため、併せて見ることによって中央構造線の空間的な広がりをとらえることができます。



- ・ 櫛田川: 上流域は中央構造線に沿って流れ、特徴的な地形を形成。周辺には破砕帯による扇状地もみられる。

5.2 歴史・文化

- ・ 飯高町:
 - 舟戸の大崩れ: 破砕帯による地滑り。地質学的視点から地域の歴史を学ぶ。
 - 八角梵鐘の泰運寺: 過去地域の信仰と文化を探る。



- 大谷嘉兵衛: 「茶聖」として海外とも交易した人物。ジオパーク地域の伊勢茶と海外との繋がりを示す存在として、その足跡を辿る。
- 田中家資料館: 地域の田中家の歴史を通して、地域の産業、文化、生活様式を理解する。
- 波瀬植物園: 独特の植生を観察できる。地域の気候、土壌と植物の関係性を学ぶ。

- ^{めすらしとうげ} 珍布峠：古き時代の地理的に重要な地点。峠に関する逸話（^{あまてらすおおみかみ} 天照大神と^{あまのこ} 天児屋根命、「おーづせんせい」児島秀樹著）や交通の歴史を学ぶ。

珍布峠



- 國分伝説の礫石: 伝説を通して、地域の地質や地形に対する先人たちの理解を探る。
- 小津安二郎資料室: 世界の映画監督小津安二郎ゆかりの地であり、1年間の代用教員時代を過ごし、以降の映画監督としての想いが熟成された場所。地域の魅力を発信する文化拠点として活用する。

小津安二郎資料室より



井尻遺跡



- 飯南町:
 - 井尻遺跡: 1万年以上前の日本最古級の土偶が出土した遺跡。古代の人々の生活と環境を探る。
 - 粥見神社のてんでん: 独特な伝統行事。地域の信仰と文化を伝える。
 - 粥見の中央構造線露頭の確認と発掘及び観察展示場整備

- 文化財センター「はにわ館」：
 - 国宝 船形埴輪: 古墳時代を代表する出土品。地域の古代文化を理解する。



- その他:
 - 本居宣長: 「古事記伝」を執筆された方で記念館で自筆稿本類等を観察。
 - 松坂城跡、御城番屋敷: 松坂城は戦国武将、蒲生氏郷によって)に築かれた城で、御城番屋敷は松坂城の護衛をしていた武家屋敷をそれぞれ観察。

- 三井高利: 近世の豪商。地域の経済発展における役割を考察できる。
- 松浦武四郎記念館: 「北海道」の名付親、探検家松浦武四郎の業績を観察。
- 嬉野考古館: 最大級の鴟尾しび（国重要文化財）、日本最古の墨書土器を観察。

5.3 地域の取り組み

- 地域住民によるジオパーク活動への参加: ガイド養成、イベント開催、教育プログラム開発などを通して、地域住民が主体的にジオパーク運営に関わる体制作り。
- 地域資源を活用した観光振興: ジオサイトを巡るツアー、特産品開発、B&Bでの民泊宿泊施設整備などを通して、地域経済の活性化を図る。
- 防災教育: 地震、地滑り、洪水などの自然災害リスクを理解し、防災意識を高めるための教育プログラムを実施。
- 環境保全: ジオパーク地域の貴重な地質、地形、生態系を保護する活動を行う。

6. ジオパークのロゴ

三重県内中央構造線露頭をモチーフに、中央構造線と三重県を表現したデザイン

(具体的なデザインは別途作成 ※世界へ向けてデザイン案を募集をする)

7. ジオパークの運営体制

松阪市、松阪観光協会、地域住民自治協議会、地域住民、地域団体、三重県、三重県立博物館、大学&専門家などからなる協議会を設立し、ジオパークの運営にあたる。(別紙既設認定ジオパーク組織図参考)

8. ジオパーク(以下GP)の活動計画

- ジオサイト整備: 案内板設置、遊歩道整備、解説資料作成など
- ガイド養成: 地域住民を対象としたジオガイド(イバウト 対応含む)養成講座開催
- 教育プログラム開発: 学校教育(小中高校&大学)、地域学習、生涯学習など、様々なレベルに対応した教育プログラム開発
- イベント開催: ジオツアー、観察会、講演会、ワークショップなど、地域住民や観光客向けのイベント開催(登録後は糸魚川GP、南アルプスGP等とコラボ)
- 情報発信: ウェブサイト、SNS、パンフレット、ガイドブックなどを通して、(仮称)三重GPの魅力の世界へ発信
- 防災対策、防災教育、災害対応実施(住民自治協議会実施中)
- MTL 断層調査研究グループ向けサテライトを常設設置する

9. ジオパークの効果

- 地域経済の活性化: ジオツーリズムによる観光客増加（世界への発信を行うことによりインバウンドを増加させる）、地域特産品の販売促進、雇用創出
- 地域住民の意識向上: 地域の自然、歴史、文化に対する理解と愛着を高め、地域活性化への意欲を高め、世代を継いでの地域の持続化
- 防災意識の向上: 地震、地滑り、洪水などの自然災害リスクを理解し、防災意識を高める
- 環境保全: ジオパーク地域の貴重な地質、地形、生態系を保護し、地域の持続化を図る

10. 最後に

（仮称）三重ジオパーク（MIEGP）は、日本列島の形成過程を示す貴重な世界地質遺産と、古代から続く人々の歴史文化が織りなす魅力的な地域です。ジオパーク活動を通して、地域の魅力を世界に発信し、持続可能な地域社会の実現を目指します。

【千代に八千代にさざれ】の地域づくり！！

【地域から世界へ、世界から地域へ】

- ① 松阪肉
- ② 小津安二郎映画監督
- ③ 中央構造線の露頭



登録提案書(直近版)



松阪市月出田引露頭の説明

連絡先：三重ジオパーク登録提案の会 代表 伊藤義徳
 電話：0598-21-8688 E-mail win2020jp@yahoo.co.jp
 携帯：090-7683-0897

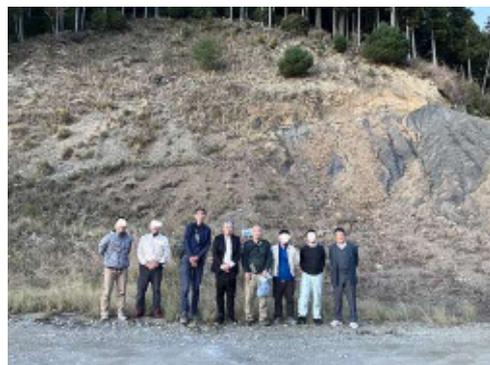
別紙：参考組織図 以下 佐渡ジオパークHP より

佐渡ジオパーク推進協議会について



仮称三重ジオパーク登録提案 関係記事

2024年11月25日 早稲田大学 高木秀雄教授 (日本トップクラスの地質断層研究者)
来松 中央構造線 田引栗野等調査 帯同



最大級の露頭 価値生かせ



栗野・田引の中央構造線。東西方向へ地質の境目が観察できる＝松阪市飯高町栗野

松阪 中央構造線、「日本ジオパーク」認定へ動き

関東から九州の手前まで約1千キロにわたる国内最大の断層・中央構造線。松阪市飯高地域には中央構造線が地表に現れた「露頭」が2カ所ある。いま地元では、露頭の規模が国内でも最大級と言われる地質的価値を生かし、「日本ジオパーク」の認定をめざす動きが始まっている。

「バイクで来ました。きた景色か」
「自然の大きさに感動」
「これが1億年前に、に近い休憩所に置かれた」

元市議ら提案書「強烈な印象 必ず評価」

2カ所の露頭を紹介する
伊藤義徳さん＝松阪市



自由帳には、全国からの来訪者の感想が記され、英国など海外から訪れる研究者もいる。

松阪市飯高町月出の標高約600級の山中にある「月出」の露頭は、1

959年の伊勢湾台風によって、斜面の一部が崩れたため発見された。高さ約80級、幅約50級にわたって、断層が見える。

2002年には国の天然記念物に指定された。

ここから東へ約5キロの標高約800級の山中には、松阪市飯高町栗野と田引にまたがる「栗野・田引の中央構造線」がある。

こちらは12年に林道建設のため切り崩した斜面で発見された。露頭は高さ約35級、幅約80級。白っぽい花崗岩と黒っぽい結晶片岩の境目が、間近にくっきりと見分けられ、20年に市の天然記念物に指定された。

「日本ジオパーク」認定をめざして活動するのは、元松阪市議で行政書士の伊藤義徳さん(71)ら。「地質資源を生かして、ツーリズムを通じて新たな収入源にも」と昨年5月、有志約15人で「(仮称)三重ジオパーク登録提案の会」を結成

した。伊藤さんが代表となり、同年7月に提案書を市に提出。市側は「地元が盛り上げれば、いい方向にいく」と応じた。

日本ジオパークは、専門家でつくる「日本ジオパーク委員会」が、地域から申請を受けて学術性や持続可能性を審査し認定する仕組み。現在、48地域が認定され、このうち10地域はユネスコ世界ジオパークにも認定されている。

中央構造線は、日本列島がアジア大陸の一部だった約1億年前にできた

と推定される大断層だ。日本ジオパークに認定されている南アルプス(長野県)や三好ジオパーク(徳島県三好市など)では中央構造線の露頭が観察できることを前面に打ち出している。

一方、東海3県には、愛知県新城市に中央構造線を間近に見られる「長篠露頭」があるが、三重県をはじめ、まだ認定地域はない。

「飯高地域の露頭は強烈なインパクトがあり、県や大学なども巻き込んで運動すれば、必ず評価されるはずだ」と伊藤さん。月出の露頭が南北方向に斜めに観察できるのに対し、栗野・田引では東西方向にはほぼ水平に現れている。両者を見比べると、空間的な広がりを実感できるのも飯高地域の魅力という。

さらに、中央構造線が走る伊勢市などとの連携も視野に入れる。

認定に向けた課題の一つは地域の理解をいかに得るか、だろう。昨年10月に認定された三好ジオパークの場合は、三好市が構想を打ち出してから認定まで7年かかった。

伊藤さんは、「まずは松阪市を中心に推進協議会を立ち上げてもらうため、市民の機運を盛り上げたい」と話し、講演活動などを続けている。

(本井 宏)

